HAL
open science

フランス便り（7）リヨン 1 区の図書館にて

Miyuki Yamamoto

▶ **To cite this version:**

Miyuki Yamamoto. フランス便り（7）リヨン 1 区の図書館にて . Lettre d'information de la société franco-japonaise des bibliothécaires et des documentalistes, 2013, 204, pp.5-6. ⟨halshs-00950051⟩

HAL Id: halshs-00950051

https://shs.hal.science/halshs-00950051

Submitted on 9 Nov 2016

HAL is a multi-disciplinary open access archive for the deposit and dissemination of scientific research documents, whether they are published or not. The documents may come from teaching and research institutions in France or abroad, or from public or private research centers.

L'archive ouverte pluridisciplinaire **HAL**, est destinée au dépôt et à la diffusion de documents scientifiques de niveau recherche, publiés ou non, émanant des établissements d'enseignement et de recherche français ou étrangers, des laboratoires publics ou privés.

フランス便り

リヨン１区の図書館にて

東日本大震災及び福島原発事故から２年目の今年にかけて、福島原発事故をテーマにしたいくつかのイベントがリヨン１区の市立図書館で催された。リヨンの小さな図書館での原発事故をめぐる熱心な取り組みについて報告する。

リヨンには市が運営する公共図書館として、大規模な総合図書館が町の中心地パール・ディユーにあり、9 区までの各区に一つか二つの小規模図書館が設置されている。こうして誰でも歩いていける距離に図書館があり、大人も子供も気軽に利用している。（リヨン市立図書館ウェブサイト http://www.bm-lyon.fr/ ）各区図書館は地域に根ざした独自の活動をしており、スタッフメンバーと地域住民との交流がさかんである。

毎年秋になるとリヨン全館の児童セクションで、「リヨンっ子の秋」L'automne des gones と呼ばれる、6 歳から 12 歳の子供向けイベントが催される。世界の地方や国々をテーマに、展覧会・映画・アトリエ・コンサートなどを通して、子供たちに様々な国や文化を楽しみながら知ってもらう。昨年 2012 年のテーマはアジアで、リヨン１区図書館は日本を選んだ。イベント期間は約１ヶ月で、日本の紙芝居紹介、造形作家の駒形克己氏の仕掛け絵本紹介、日本食「お弁当」紹介、折り紙教室等々内容は盛りだくさんであった。このイベント企画の段階で、知人を通して筆者にも協力要請があった。

実は、楽しげなイベントではあっても１区図書館主催者の皆さんは、日本を語るなら原爆、そして近年の原発事故に言及しないわけにはいかないという思いを抱いておられ、福島の現状の取り上げ方について慎重に模索するなかで、東アジア研究所の研究員杉田くるみ氏と筆者に問い合わせてこられたのだった。杉田氏は被災地の人々の協力を得て避難に関する調査研究に携っており、筆者もそのプロジェクトに参加し、職場の枠を超えて被災者の役に立てる活動につなげる方法を模索していた。二人とも１区の住民だったこともあり、図書館の皆さんとの協力関係は親しい友好の機会となった。

折り紙教室の一環で広島「原爆の子の像」と折り鶴の紹介をするとともに、千羽鶴を広島に送る計画への呼びかけがあった。原爆の話に関連して福島原発事故にも触れ、リヨンの子供たちから東京へ避難中の福島の子供たちに向けて応援寄せ書きを書いてもらい、筆者帰国の折に避難者支援グループに届けることにもなった。秋のイベントは成功裡に終了し、図書館の皆さんは引き続き折り鶴指導と福島関連イベントに意欲を燃やしていた。

一般（大人）向けには 12 月に原発問題を扱った映画の上映、そして事故から２年目の今年３月には、杉田氏を始め福島の事故後に現地入りして関わってきた人々数人を招いて公開討論会が開かれた。熱心な聴衆も集まって、原発事故の甚大な被害と影響が伝えられ、和やかながらも活発に深刻な事態をめぐる意見が交わされた。

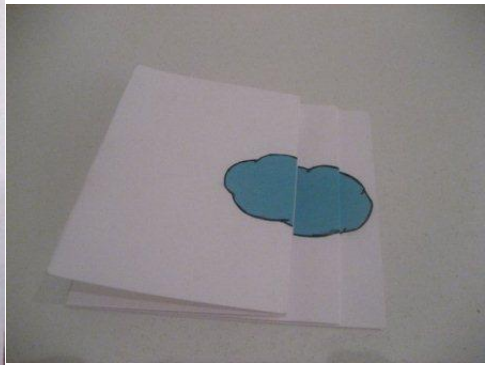
児童セクションでは何人もの子供たちが、千羽を目指して少しずつ鶴を折っては図書館に持ち込み、広島へ発送の準備を進めていた。また、２月の冬休み期間を利用して Le 11 mars des enfants de Fukushima と題した図画工作のアトリエが開かれた。1 時間半ごと 3 回の指導で福島の子供たちに贈る絵本を作製しようというアトリエである。

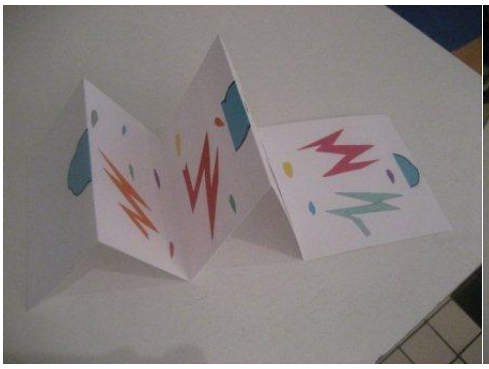
まず 1 回目には、原発事故で避難を強いられた子供たちの作文にイラストレーターが絵を描いた「ふるさとはフクシマ - 子どもたちの 3. 11」(NPO 元気になろう福島編集 文研出版)という本を取り上げ、3 篇ほど仏訳した作文を読み聞かせたり、事故後の写真を見せたりして福島で起きていることを伝えた。第 2、3 回目は実作業で、福島の子供たちへ向けて呼びかけの作文・詩を書き綴り、貼り絵の手法で絵本を作る。上にも述べた駒形克己氏の仕掛け絵本をまねたもので、畳んだり開いたりすると画が変わるようになっている。パソコンを使って字形フォントやレイアウトを自分で選び、絵本の最終ページに添えて仕上げる。

さらに、この試みに興味を持った近所の中学校の図書室司書からの要請で、同じアトリエを中学校でも開催し、最終的に 10 歳から 12 歳までの子供たち 30 人近くの手作り絵本が出来上がった。4 月の第 1 土曜日に、保護者始め一般の人々に公開の形で、絵本の展示と子供たちによる作文・詩の朗読、現地を知る人への子供たちからの質問会が催された。その際に折り鶴も展示され「原爆の子の像」の物語と広島へ千羽鶴を贈る意味などの解説もあった。

筆者はアトリエそのものには参加できなかったが、4 月の発表会で出来上がった作品を見せてもらったときは、色とりどりのかわいらしい絵本に思わず感嘆の声をあげてしまった。絵本は 2 部ずつ作製され、1 部はリヨン図書館に保存、もう 1 部が福島に送られることになっている。より多くの人に見てもらえるように、作文・詩の和文翻訳を添えて作品を電子化したファイルを準備中である。

フランスのどこの図書館でも、子供向けにはマンガや絵本の分野で、大人向けには異国文化への興味から、日本(的なもの)の存在感は無視できないだろう。しかし、1 区図書館スタッフの日本へのただならない熱意には驚かされた。そして原発事故を被り事故後を生きる福島への思い遣りの深さが筆者には大変嬉しい。イベントは当日が終わってしまえばそれきりになりがちだが、1 区図書館ではイベントをきっかけに次の企画へとつなげる努力を続けている。リヨンの子供たちの絵本が福島に届いたあかつきには、子供たち同士が将来にわたって直接関われるような日仏交流も実現できるかもしれない。





Ne pend pas regards
Et monte sur ton petit nuage dentelle,
Et RETE !!!
Rejoins ton amie, ta famille,
Rejoins le grand
Tu seras ici de ton enfance à l'enfance d'amour de rêves
Mais bien vite, crée de ce souvenir de ton enfance de vivre
Et grand tu redescendras sur terre
Et tu seras heureux et vivra
ZOE 2010